

2026年3月期第3四半期決算
投資家向け説明会質疑応答録

日時:2026年2月12日(木)

登壇者:取締役 専務執行役員、CFO 兼 CISO 兼 GCO、財務統括 兼 管理統括 兼 法務統括
後藤 芳光

常務執行役員、CAO 兼 CSusO、経理統括 君和田 和子

SB Investment Advisers & SB Global Advisers, Executive Managing
Partner & CFO, Navneet Govil

Arm Holdings plc, Executive Vice President and Chief Financial Officer,
Jason Child

質疑応答

質問者1

Q1:

2問あります。1つは、決算説明会資料の47ページと48ページの米国データセンターについてです。SB エナジーの発表によると、ミラム郡と同規模の1ギガワットのデータセンターをボーデン郡でも建設しているとのことですが、最終的にSB エナジーは非常に大きな規模になると思います。子会社として連結されている場合オンバランスになるとと思いますが、アレス・マネジメントが優先株8億ドルを出資しているということで、持分法適用会社となりバランスシートから外れる理解でよいのでしょうか。

また、DigitalBridgeについては、運用規模は大きいものの、直接出資は約20億ドル程度で、LPとしての出資比率は限定的です。戦略的に買収する必要があるのかという点も含め、データセンター戦略についてご説明ください。

A1:

(君和田) まずSB エナジーの会計処理についてですが、SB エナジーは子会社であり、連結しています。DigitalBridgeについては現在IFRSでの連結範囲を精査中です。US GAAPでは、DigitalBridge自体は、ファンドを通じた投資でありLPとしての持分やリスク・リターンが限定的であることから、DigitalBridgeの財務諸表にはそのまま連結してはいないと思います。IFRSでどうなるかは現在作業中ですが、フォートレスの例などを踏まえると、大きなGAAP差はないのではないかと考えています。最終的には今後の精査次第です。

A1:

(後藤) DigitalBridge は、多くの有力なデータセンター関連企業に投資しています。マネジメント間で十分な議論を行った上で、同社を通じて有力なデータセンター関連企業へのアクセスを確保できることは、当社の今後の戦略にとって大きなプラスになり、新しい AI 時代のインフラ構築を支援する能力も向上すると考え、買収を決定しました。

Q2:

SB エナジーは子会社のままで、ミラム郡とボーデン郡のプロジェクトを進める場合、プロジェクトファイナンスは IFRS でオンバランスになるという理解でよいでしょうか。

A2:

(君和田) おそらくそのようになると思います。

Q3:

すると、多額のデットがオンバランスで計上されるということですか。

A3:

(君和田) はい、そうなります。

A3:

(後藤) オンバランスかどうかと、ノンリコースかリコースかの議論は別のものと捉えています。会計上オンバランスであっても、ノンリコースであることを明確に説明できれば、クレジット上の問題はないと考えています。

Q4:

データシート 15 ページと 16 ページの新セグメントについてです。AI チップ関連で、Ampere 取得費用 155 億円と Arm との内部取引を差し引いても、マイナスが大きいのに見えます。何が要因でしょうか。また、第 3 四半期に「その他」が約 1,800 億円の利益と大きくなっていますが、これはロボ HD の評価益によるものでしょうか。

A4:

(君和田) AI コンピューティングセグメントでは、子会社でさまざまな費用が発生しています。詳細の説明は控えますが、それが主因です。

Q5:

AI コンピューティングセグメントとは別に、今回「その他」が、税引前利益ベースで約 1,800 億円の黒字となっていますが、こちらの要因について教えてください。

A5:

(君和田) 「その他」の利益については、ご指摘の通りロボ HD 傘下ポートフォリオ企業の評価益が含まれています。

質問者2

Q1:

財務編資料 10 ページについてです。25 年に入り 9 カ月で約 400 億ドルの投資を実行していますが、今後さらに投資ペースは加速するのでしょうか。

A1:

(後藤) 今回の説明を通じて申し上げたいのは、当社には十分な財務余力があるということです。AI 新時代に向けた投資機会は始まったばかりで、多くの機会があると考えています。それに向き合える財務力はあります。ただし、無制限に投資するのではなく、財務ポリシーを守りながら、財務の安定性を維持できる範囲で投資規模を決定していきます。孫社長が攻めて行きたいと言った際に、財務はどのように議論を進めるかと言う点が大事ポイントになります。

Q2:

SVF 編資料 9 ページに、OpenAI の売上は 2 年で 10 倍成長しているとありますが、損失も同様に拡大しているのでしょうか。ユニットエコノミクス改善の兆候はありますか。

A2:

(Govil) 我々が重要だと考えているのは、事業規模の拡大とともにマージンが着実に改善している点です。我々は投資判断において、投資先の強固な AI テクノロジー基盤、優れたプロダクトマーケットフィット、スケール可能なユニットエコノミクス、そして高い実行力を重視しています。

OpenAI は、収益見通しが上方修正されており、外部報道からもその成長性に対する市場の信頼が高まっていることがうかがえます。規模拡大に伴って、さらにマージンが改善していくという確信があります。ご存知のとおり、マネタイズを目的として無料ユーザー向けの広告導入も始まったばかりです。今後も、OpenAI には大きな成長余地があると考えています。

質問者3

Q1:

AI コンピューティングとして Arm、Graphcore、Ampere を統合しましたが、マネジメントや運営上の変化はありますか。

A1:

(後藤) 新セグメントの設置が、経営戦略やマネジメントに直接影響を与えるものではありません。当社としては従来通り、さまざまなテーマに取り組んでいきます。今回の変更は会計上の表現方法に関するものであり、経営方針そのものとリンクしているわけではありません。

Q2:

OpenAI・チップ・データセンター・ロボットの連携およびマネジメント方法について。決算説明会資料7ページでは、OpenAI、チップ、データセンター、ロボットといったテーマが並列で示されています。これらは独立しているようには見えず、今後どのように連携させていくのか、またそのマネジメント方法について教えてください。

A2:

(後藤) それぞれは相互に影響し合うテーマだと考えています。Arm のビジネス、OpenAI のビジネス、そしてロボ HD 傘下のさまざまな企業のビジネスは、ある意味で有機的に結合していくものだと思います。ただし、まずはそれぞれの企業と個別に向き合うことが重要です。その上で、各社のトップマネジメントを含めてマネジメントがさまざまなコミュニケーションを行いながら、ソフトバンクグループとしてシナジーを最大化していくことが、AI 革命の先頭に立つための重要な進め方だと考えています。

Q3:

例えば SBG と Arm、SBG と ABB のように 1 対 1 で話すことはあるが、全員で集まって話す機会はあまりないということでしょうか。

A3:

(後藤) 全員が集まったかどうかについてはあまり確証がありませんが、この中で有力な企業同士が直接コミュニケーションをしていることは現在でもあります。

質問者4

Q1:

OpenAI の次回の資金調達ラウンドについてはコメントなしとのことでしたが、少なくとも現在の持分比率を維持することを目指すと理解してよろしいでしょうか。また、報道では、Amazon のような他のハ

イパースケラーが出資する可能性についても取り上げられています。仮にそのような投資が実現した場合、OpenAIにとってどのようなシナジーが生まれるとお考えでしょうか。

A1:

(後藤) 次回ラウンドについて現時点で意思決定はしていません。持分(現在約 11%)をどうするかについても、現時点で決定はありません。Amazon の参加については、他社に関するコメントは控えます。

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下 SBG と併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。証券の募集、購入の申し出の勧誘、又は証券の売出しは、1933 年証券法(その改正を含む。以下、「証券法」という。)の登録要件に従って行われます。本資料に含まれる情報は、証券法ルール 135 に従って記載されるものです。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、アーム及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券と同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社(以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」)、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」)及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SB ファンド(ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等)を含み

ます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。